

主催 秋田県 秋田ひきこもりラボ

令和8年度

秋田県ひきこもり県民向け公開講座

2026年 12/12 土 13:30～17:00

参加無料

第1部 講演「景色が変わる時～歌を添えて～」

秋田大学客員教授 三浦 栄一 氏

第2部 秋田県内の支援の取り組みについて

- ・秋田県のひきこもり対策について 秋田県障害福祉課
- ・不登校・ひきこもりの親の会「かだれ会」の活動について
事務局長 赤田美穂子 氏
- ・ひきこもり等の自立支援について
自立支援センターほのぼの・ほのぼの相談支援事業所
管理者 澤木 康行 氏

第3部 特別プログラム ダックスムーン ミニライブ

会場

秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎 会議棟

秋田市上北手荒巻字堺切2-4-2

※オンライン参加できます（第3部はオンラインなし、動画撮影・録音禁止）

申込
方法

▼WEBでお申し込み

秋田ひきこもりラボ

<https://akitahikikomorilabo.org/>

メール akita.hlabo@gmail.com



▼お電話でお申し込み

TEL 090-5355-9090

[受付時間] AM 10:00 ～ PM 18:00



講師プロフィール 三浦栄一氏

秋田大学客員教授、ラジオ番組パーソナリティ（エフエム秋田 土曜正午放送「ダックスムーンのランチde'ポップス」）

北秋田市立合川西小学校校長、北秋田市立合川小学校（統合校）初代校長、大館市立釈迦内小学校校長を経て令和2年に大館市立城西小学校長で定年退職。退職後は秋田大学客員教授、令和7年度まで同大学北秋田分校長。

釈迦内小学校長時代に地域とともに「ひまわりプロジェクト」を実践。第45回博報賞・文部科学大臣奨励賞、文部科学省・経済産業省キャリア教育推進連携表彰、東北電力「活性化支援プログラム」最優秀表彰。城西小校長時代に秋田県環境大賞、地域学校協働活動文部科学大臣表彰。

ポップスデュオ「ダックスムーン」でボーカルを担当（MOON三浦）。ふるさと秋田を中心に幅広く音楽活動を展開している。JR大館駅発車メロディ「きりたんぼ物語」「ハチ公物語」、秋田内陸線阿仁前田温泉駅メロ「四季美湖物語」、学校メモリアルソング、CD・カラオケ・音楽配信サイトなど楽曲多数。

「かだれ会」について

事務局長 赤田 美穂子

2003年10月に開かれた県母親大会で、大勢の親が子どもの不登校について悩んでいる現状を知ったことが活動のきっかけです。翌11月に長信田の森心療クリニック（三種町）の呼び掛けでシンポジウムを開いて、不登校・ひきこもりの親の会「かだれ会」が発足しました。現在も毎月1回、第4日曜日に県生涯学習センターで定例会を開催、現在までに261回を数えます（8月末現在）。

かだれ会は、ただ単に解決に導くのではなく、子どもの状態を受け入れ、少しでも笑顔でいられる環境をつくるために、みんなで支え合う場です。

会の話し合いの中で、月に一度でもいいから、子どもたちが誰にも遠慮せず食事を楽しむ場をつくろうという願いをもとに「みんなの食堂」が昨年2月からスタートしました。新鮮な野菜を提供するため、かだれ会の農園で会員らが畑作業を行っています。

今年度から「あきた子ども応援ネットワーク」に登録。こども食堂としての役割も担っていることから、子ども連れの家族の利用が増えています。食堂の運営には不登校やひきこもりの当事者が関わっているほか、畑の作業には不登校の子どもも参加しています。

「特定非営利活動法人ほのぼの」について 理事長 金 登美一

設立15年目、福祉サービス事業(就労継続B・計画相談・就労選択)を運営している法人です。障害者団体「秋田市肢体不自由児者父母の会」の親が理事となり設立しました。秋田市内ですでに施設を運営していた希望園(残間氏)や緑光苑(川村氏)で、「明るく光のあたる障害者社会」を学び、さらには施設運営の手ほどきを受けて設立しました。「明るい挨拶・感謝の気持・笑顔忘れず」を定款のトップに掲げ、まだまだ経験浅い「ひよこ」の事業所です。毎年繰り返される制度改革、報酬改革に戸惑いながらも「利用者中心・生活充実」を目指して日々研鑽しながら、歩んでいる法人です。

福祉の始まりは、貧困政策からと言われていますが、それが障害者福祉へとつながってきたのはごくごく最近のことです。ノーマライゼーション・国際障害者年などの言葉を耳にした頃を忘れずに、障害者福祉の向上を福祉関係者と共に目指したいと考えています。